

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 文化を知る	美術	岡本健彦	1年次	春

授業のキーワード	美術史とは、様式とは、人々との関わりは、
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	美術史とは原始時代から現代までを結ぶ芸術の軌跡であり、又芸術と社会の関わりを知ることです。そして創造性の躍動を感じ各自が感性を高めること、それが目標となります。
履修のアドバイス・ 前提科目等	美術史は知識のみならず創造性が高まること、又作品鑑賞による感性の世界の体験で心の広がりをもつこと。

## 授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	美術史の時代区分とは	美術の流れを読み解くと、現在もその続きに生きている実感が湧いて面白い体験となる。	第9講	北方ルネッサンスとバロック美術・	初期フランドル絵画とネーデルラント絵画、そしてスペインを中心としたバロック絵画へ。
第2講	メソポタミア、エジプトの美術	最初に都市文明の曙の地である、又神話の世界からオリエント美術の様式が生まれる。	第10講	バロック美術・	日常性への礼賛と理想としての東方、そしてルーベンスの世界へ。
第3講	ギリシャ美術	エーゲ海から始まったギリシャ美術は神話と共に芸術の様式を美の原理まで高めた。	第11講	ロココ美術	趣味の感覚と繊細なる雅の世紀とは、歴史画の衰退と公衆の誕生そして幸福の探求へ。
第4講	古代ローマと初期キリスト教美術	ギリシャ文化を受け継いだローマは、その後キリスト教による精神文化へと発展する。	第12講	19世紀美術	古典主義とロマン主義は近代への序曲となった。そしてバルビゾン派と印象派へ。
第5講	ロマネスク美術	教会内部で出会う『かたち』その求心性と機能性さらに拡散、そして共有する精神。	第13講	現代の状況	新たな美の発見と反芸術、古典の見直し、抽象と具象、さらに社会との関わりを知る。
第6講	ゴシック美術	ゴシック様式の起源からイタリア美術に見る中世、そしてルネッサンスへの誘い。	第14講	まとめ	自分の趣味や関心の強い課題を選び図書室でレポートの下書きをする。
第7講	イタリア・ルネッサンス・	文芸復興とは新たなる視覚そして人間への関心、さらにキリスト教と古代世界との考察。	第15講	試験	指定の用紙にレポートを清書し提出する。
第8講	イタリア・ルネッサンス・	多面体としての16世紀、レオナルド・ダ・ビンチ、ミケランジェロ、ラファエロを中心とした盛期ルネッサンス。	評 価 方 法		出席率 20% レポート 80%
備 考 (関連する資格・試験等)		人が元来もっている感情を純粹に高めようと思うこと、それが芸術との関わりを生むからです。その気持ちで美術の歴史に接してほしい。それだけでも美術の何であるかを知ることができる基礎体系講座だからです。			
使用する教科書 (必ず購入してください)			参 考 文 献		
プリント配布 VTR 美術館鑑賞			監修者 高階秀爾 西洋美術史第5版 美術出版社 監修者 田中英道 西洋美術への招待 東北大学出版 著者 H.W.ジャンソン+アンソニー.F.ジャンソン 西洋美術の歴史 創元社		